

名古屋掖済会外科専門研修プログラム

1. 名古屋掖済会外科専門研修プログラムについて

名古屋掖済会外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）またはそれに準じた外科関連領域（乳腺や内分泌領域）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

2. 研修プログラムの施設群

名古屋掖済会病院と連携施設（7施設）により専門研修施設群を構成します。

本専門研修施設群における専門研修期間施設と連携施設は以下のとおりであり、この研修施設群の専門研修指導医名と研修可能領域は**巻末資料1**に示します。

専門研修基幹施設

名古屋掖済会病院 愛知県名古屋市中川区

専門研修連携施設

- | | |
|----------------|------------|
| 1 名古屋大学医学部附属病院 | 愛知県名古屋市昭和区 |
| 2 愛知医科大学附属病院 | 愛知県長久手市 |
| 3 中部労災病院 | 愛知県名古屋市港区 |
| 4 大同病院 | 愛知県名古屋市南区 |
| 5 公立西知多総合病院 | 愛知県東海市 |
| 6 常滑市民病院 | 愛知県常滑市 |
| 7 稲沢市民病院 | 愛知県稲沢市 |

3. 専攻医の受け入れ数について

受け入れ可能な専攻医数はNCD登録手術数と専門研修指導医数により上限が定められており、**巻末資料2**に本専門研修施設群の3年間NCD登録数と専門研修指導医数、本年度の募集専攻医数を記載しています。

4. 外科専門研修について

1) 外科専門医は初期臨床研修修了後、3年（以上）の専門研修で育成されます。

3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行います。

専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度

(コアコンピテンシー) と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

サブスペシャリティ領域によっては外科専門研修を修了し、外科専門医資格を習得した年の年度初めに遡ってサブスペシャリティ領域専門研修の開始と認める場合があります。

研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数が必要です。

初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例(NCDに登録されていることが必須)は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができます。

2) 年次毎の専門研修計画

専攻医の研修は、毎年達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。専門研修 1 年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learning や書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。

専門研修 2 年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。

専門研修 3 年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。

外科専門医研修を行っているいずれの時期でも、研修中の病院が行政によって担当が定められている災害救護や救急医療には、外科医として積極的に参加して経験を積みます。

3) プログラム例

名古屋掖済会病院外科研修プログラムについて、基幹施設である名古屋掖済会病院での専門研修を主とするコースと、連携施設での専門研修を主とするコースがあります。3 年間の施設群ローテーションにおける研修内容と予想される経験症例数を下記に示します。どのコースであっても内容と経験症例数に偏り、不公平がないように十分配慮します。名古屋掖済会病院研修プログラムの研修期間は 3 年間としていますが、習得が不十分な場合は習得できるまで期間を延長することになります(未修了)。一方で、カリキュラムの技能を習得したと認められた専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能教育を開始します。

A: 基幹施設である名古屋掖済会病院での専門研修を主とする場合

・専門研修 1・2 年目

名古屋掖済会病院で研修を行います。

一般外科/麻酔/救急/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌

経験症例 350 例以上/2 年 (術者 120 例以上/2 年)

・専門研修 3 年目

3年目の研修期間中原則6か月間をいずれかの連携施設で研修します。不足症例に関して各領域の研修を行います。また、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能教育を開始します。連携施設での研修は研修人数等により2年目になることもあります。

B：連携施設での専門研修を主とする場合、

・専門研修1・2年目

連携施設群のうちいずれかに所属し研修を行います。

一般外科/麻酔/救急/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌
経験症例350例以上/2年（術者120例以上/2年）

・専門研修3年目

3年目の研修期間中原則6か月間を名古屋掖済会病院で研修を行います。不足症例に関して各領域の研修を行います。また積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能教育を開始します。基幹施設での研修は研修人数等により2年目になることもあります。

4) 研修の週間計画および年間計画を巻末資料3に示します。

5. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。

放射線診断・病理合同カンファレンス：手術症例を中心に放射線診断部とともに術前画像診断を検討し、切除検体の病理診断と対比いたします。

Cancer Board：複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、内科など関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどによる合同カンファレンスを行います。

基幹施設と連携施設による症例検討会：各施設の専攻医や若手専門医による研修発表会を毎年1回行い、発表内容、スライド資料の良否、発表態度などについて指導的立場の医師や同僚・後輩から質問を受けて討論を行います。

各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。

大動物を用いたトレーニング設備や教育DVDなどを用いて積極的に手術手技を学びます。

日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、e-learning、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。

標準的医療および今後期待される先進的医療、医療倫理、医療安全、院内感染対策

6. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらにえられた

成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。

日本外科学会定期学術集會に1回以上参加

指定の学術集會や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

7. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

- 1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）
医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。
- 2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること
患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を目指します。
医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。
- 3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること
臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。
- 4) チーム医療の一員として行動すること
チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
的確なコンサルテーションを実践します。
他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。
- 5) 後輩医師に教育・指導を行うこと
自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。
- 6) 保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること
健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
診断書、証明書が記載できます。

8. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1) 施設群による研修

本研修プログラムでは名古屋掖済会病院を基幹施設とし、他の連携施設とともに病院施設群を構成してします。専攻医はこれらの複数の施設で研修することにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得します。施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、名古屋掖済会病院専門研修プログラム管理委員会が決定します。

2) 地域医療の経験

地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

本研修プログラムの基幹病院および連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設が入っています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療の研修が可能です。

地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。

消化器がん患者の緩和ケアなど、ADL の低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

9. 専門研修の評価について

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。

10. 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である名古屋掖済会病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。名古屋掖済会病院外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、事務局代表者、外科の4つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

11. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルスに配慮します。
- 3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

12. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目

あるいはそれ以後)の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

資料 1

専門研修基幹施設

名古屋掖済会病院 都道府県：愛知県

1. 統括責任者名：河野弘
 2. 統括副責任者名：米山文彦
- 指導医：河野弘 米山文彦、木村桂子、山口直哉、桑原史明、寺境宏介、加藤祐一郎
- 1：消化器外科， 2：心臓血管外科， 3：呼吸器外科，
 - 4：小児外科， 5：乳腺内分泌外科， 6：その他（救急含む）

専門研修連携施設

1 名古屋大学医学部附属病院

連携施設担当者名：伊神剛

指導医：伊神剛、川口晃司

- 1：消化器外科， 2：心臓血管外科， 3：呼吸器外科，
- 4：小児外科， 5：乳腺内分泌外科， 6：その他（救急含む）

2 愛知医科大学付属病院

連携施設担当者名：山田哲也

指導医：山田哲也

- 1：消化器外科， 2：心臓血管外科， 3：呼吸器外科，
- 4：小児外科， 5：乳腺内分泌外科， 6：その他（救急含む）

3 中部労災病院 愛知県

連携施設担当者名：橋本瑞生

指導医：橋本瑞生、水谷哲之、臼井弘明

- 1：消化器外科， 2：心臓血管外科， 3：呼吸器外科，
- 4：小児外科， 5：乳腺内分泌外科， 6：その他（救急含む）

4 大同病院 愛知県

連携施設担当者名：宇野雄祐

指導医：宇野雄祐、小谷勝祥、三宅隆史、渡邊克隆

- 1：消化器外科， 2：心臓血管外科， 3：呼吸器外科，
- 4：小児外科， 5：乳腺内分泌外科， 6：その他（救急含む）

5 公立西知多総合病院 愛知県

連携施設担当者名：小川明男

指導医：小川明男、山口貴之

- 1：消化器外科， 2：心臓血管外科， 3：呼吸器外科，
- 4：小児外科， 5：乳腺内分泌外科， 6：その他（救急含む）

6 常滑市民病院 愛知県

連携施設担当者名：竹之内靖

指導医：深田伸二 岡田明子 竹之内靖 中島正彌 渡邊博行

- 1：消化器外科， 2：心臓血管外科， 3：呼吸器外科，

4：小児外科，5：乳腺内分泌外科，6：その他（救急含む）

7 稲沢市民病院 愛知県

連携施設担当者名：安藤公隆

指導医：安藤公隆 尾上重巳 吉田克嗣 林友樹

1：消化器外科，2：心臓血管外科，3：呼吸器外科，

4：小児外科，5：乳腺内分泌外科，6：その他（救急含む）

資料2

本専門研修施設群の3年間 NCD 登録数は 3136 例で、専門研修指導医は 38 名のため、本年度の募集専攻医数は 6 名です。

資料3

週間スケジュール

基幹施設（名古屋掖済会病院例）

月から金：午前外来、回診、当番制で担当

カンファレンス等

月 16：30-17：00 消化器外科内科カンファレンス

火 15：00 外科病理カンファレンス 標本切り出し

木 15：30-17：30 外科病棟および手術症例カンファレンス

研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール（案）

全体行事予定

4月

- ・ 外科専門研修開始。専攻医および指導医に提出用資料の配布
- ・ 日本外科学会参加（発表）

5月

- ・ 研修修了者：専門医認定審査申請・提出

8月

- ・ 研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）

11月

- ・ 臨床外科学会参加（発表）

2月

- ・ 専攻医：研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成（年次報告）（書類は翌月に提出）
- ・ 専攻医：研修プログラム評価報告用紙の作成（書類は翌月に提出）
- ・ 指導医・指導責任者：指導実績報告用紙の作成（書類は翌月に提出）

3月

- ・ その年度の研修終了
- ・ 専攻医：その年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出

- ・ 指導医・指導責任者：前年度の指導実績報告用紙の提出
- ・ 研修プログラム管理委員会開催